

特集

行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブ

【チャグチャグスポーツクラブ】 ＜岩手県滝沢市＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域のコミュニティと密接に関わっている行政や教育機関、学校の部活動とよいコミュニケーションを築くことが重要です。

そこで今回は、地域の行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① クラブ（体育協会）・保護者・テニス協会が熱意を持って団結し、学校との連携に至る!
- ② 初期の会員が指導者としてクラブへ戻ってくるなど、好循環が生まれている!
- ③ クラブの存在が、部活動を取り巻く諸問題の解決策としても機能!



1 クラブ概要

チャグチャグスポーツクラブのある滝沢市は、盛岡市の北西部に位置し、県庁所在地である盛岡市中心部から8kmの距離にあるベッドタウンです。平成12年2月には人口50,000人(当時)を達成し、日本一の人口を有する村となりました。また平成26年1月には市制施行となりました。

クラブ名に使用している『チャグチャグ』は、毎年6月の第2土曜日に行われる『チャグチャグ馬コ』からいただきました。このお祭りは農耕馬に感謝する200年に及ぶ伝統行事で、100頭ほどの馬が市内の蒼前神社から盛岡市内の八幡宮までの13kmを行進します。馬に設えたあでやかな装飾とたくさんの鈴が特徴で、歩くたびにチャグチャグとなる鈴の音が名称の由来といわれています。

クラブの掲げる理念は、全てのスポーツの原点は『遊び』であり、小中学生の会員はこの原点をスタートに協調性や社会性を育むこと、高校生以上の会員は生涯を通してスポーツに親しむことで明るい社会を創造することです。

2 行政・教育機関・学校部活動と連携するようになった経緯と具体的な取り組み

当クラブの特徴として、体育協会がクラブ設立から現在の運営に至るまでを行っていることが挙げられます。

実際のクラブ立ち上げまでの経緯は、平成7年度に行った種目別協会代表者会議の席上で、協会員の高齢化への対応及び現役選手の発掘をすることの2点が課題として浮き彫りになったことにあります。体育協会としてこの課題に対応するため、翌年度から『選手育成推進事業』を4年間実施、さらに将来の総合型クラブ発足を見据えて『スポーツクラブ育成推進事業』を2年間実施し、総合型クラブ設立に向けた基礎作りを行いました。このような経緯を経て、平成14年4月16日開催の設立総会において「たきざわチャグチャグスポーツクラブ」(名称当時)として発足しました。

クラブ立ち上げ当初、硬式テニスは小学生を対象にスタートしました。活動を継続する中で、上達する会員が増えるとともに大会で入賞する会員も増え、自分たちが中学進学後に競技を継続することができるのか、不安な思いがあったようです。その思いを受けた有志の保護者数人が、中学校に硬式テニス部新設の働きかけを行いました。学校側からは全く聞き入れてもらえませんでした。

そこで、日々指導に携わっていた市テニス協会の菊池会長に対して相談を行いました。菊池会長は方策を考えた結果、クラブ(体育協会)へ申し入れを行い、保護者、クラブ(体育協会)及びテニス協会が合同で取組みを行なうことになりました。

最初の取組みとしては、当時の教育長から総合型クラブについての理解を得た上で、学校からの理解を得ることでした。そこで、市内小中学校長が一堂に会する学校長会議への参加を認めてもらうために教育委員会との協議を重ねました。その際、幸運にも当時の教育長は行政職の経験者であり、スポーツ振興計画に造詣が深かったことが有利に働きました。会議では総合型の意義や必要性について熱く説明することができましたが、当時の総合型クラブの認知度は現在と比べてはるかに低く、校長先生からは懐疑的な意見も多く出されました。また、後日談ですが学校現場においても新規に部活動を増やすことによる教員の負担増加を懸念する声も多かったそうです。

このような状況下で不安を抱えながら中学校を訪問したのですが、そこでも幸運に恵まれ

ました。それは、訪問の直前に赴任して来られた校長先生が、前任地の中学校において校外型部活動を設立した実績をお持ちの方だったことです。これによって中学校側とは積極的な意見交換を交わすことができ、協議がスムーズに進みました。

また、この中学校はバスケットボールや剣道などにおいて外部指導者が多く活躍している歴史的な土壌があったことも連携する上で有利に働きました。このように多くの幸運に恵まれ、校外型部活動『チャグチャグスポーツクラブ滝二中硬式テニス部』(名称当時)として平成15年4月からスタートすることができました。

3 連携内容

硬式テニス部設立において学校側が示した条件は、学校の敷地から離れて行う活動のため、保護者とクラブ(体育協会)双方からバックアップすることを求められました。そこで、父母会を組織し保護者が主体的に当番表の作成に携わり日々の活動をサポートしました。

さて、いざ硬式テニスをスタートしたものの、中学生への指導は初めてのことで毎日が試行錯誤の連続でした。技術指導面を市テニス協会菊池会長が1人で担い、保護者の方々がボール拾い等をサポートしていましたが、菊池前会長が仕事の都合でどうしても活動に間に合わない時は、同じく保護者のサポートのもとキャプテンを中心に練習メニューをこなしていました。このように指導者と保護者の距離が近いことから、臨時的にテニス経験を持つ保護者にコーチをお願いすることもありました。しかし、継続的に指導を依頼するまでには至らず、菊池前会長を中心とした少人数指導の期間が長くありました。

現在では、主管する市テニス協会からの十分なバックアップと併せて、会員OBやOGが指導者として活躍している事例もあり人的な循環が生まれております。

また、学校の敷地から離れて行う活動のため、生徒間に「サボれる部活」との認識が広がってしまいました。この問題に対応するため当人と保護者及び学校、指導者、場合によりクラブ(体育協会)が面談を重ね、指導者の人数を平均2人態勢にする、少人数で35人の生徒を指導する方法を指導者が学ぶなどし、徐々に解決することができました。



4 連携したことによる クラブや連携機関・団体への効果・影響

設立2年目からは学校側の配慮で担当の先生を配置していただき、校内での部集会等をメインに担当してもらい、設立3年目以降は活動費が支給されています。

外部指導者、学校長他教員、PTA役員等をメンバーとするサポーター交流会を情報交換の場として定例化しています。その中で、顧問の教員の方から「外部指導者と積極的な意見交換をすることができる機会が得られ、大変有り難い」との感想を聞くことができました。

5 今後の課題・展望

平成22年度より、学校部活動にはない種目でも週3日以上を外部で活動する生徒に対し、中学校として『校外活動部』として認めることになりました。そして、東北大会などにおいては、団体戦へ出場するために教員の帯同が必須でしたが、学校の配慮で派遣していただきました。

また、硬式テニスを設立した初期の会員が、高校、大学とテニスを継続し、社会人になってからも市内の大会に参加しながらクラブ指導者としてかかわる事例も見られ、指導者の好循環が生まれてきています。このことは他の種目へも波及し、指導者同士が切磋琢磨する動機付けとなっています。

現在、硬式テニスの他にもバドミントンやラグビーなど計5種目において市内中学校との連携を確立しています。教員が活動経験のない部活動顧問を引き受けざるを得ない現状や部活顧問の長時間過密勤務の解消など、中学校部活動を取り巻く諸課題を解決する存在として、総合型クラブが担うべき役割は益々大きくなっていくと思います。

(公益財団法人滝沢市体育協会 千葉 貴志)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成14年4月16日

所在地 : 岩手県滝沢市

運営 : 会員数 : 503名 (平成29年2月現在)
予算規模 : 8,469,000円 (平成28年度)

有給職員 : 1名

クラブ内資格 : 日体協公認アシスタントマネジャー 3名

保有者数 : 日体協公認競技別指導者資格11名

クラブ運営 : 公益財団法人滝沢市体育協会

実施種目数 : 17種類

指導体制 : 滝沢市体育協会加盟種目別協会指導者等

年会費 : 5,000円 (家族内2人目から3,000円) で複数種目の選択が可能

■連絡先

郵便番号	020-0655		
住所	岩手県滝沢市鶴飼御庭田1番地1		
TEL	019-687-3637	FAX	019-687-3346
Eメール	chaguspo@taikyou.or.jp		
ホームページ	http://www.taikyou.or.jp/chaguspo/index.html		